

## [ I. 直面する経営課題を克服するための最重点計画 ]

次の3つの施策を最重点に取り組みます。

### 1. 災害に強く安全・安心な原子力発電所の構築

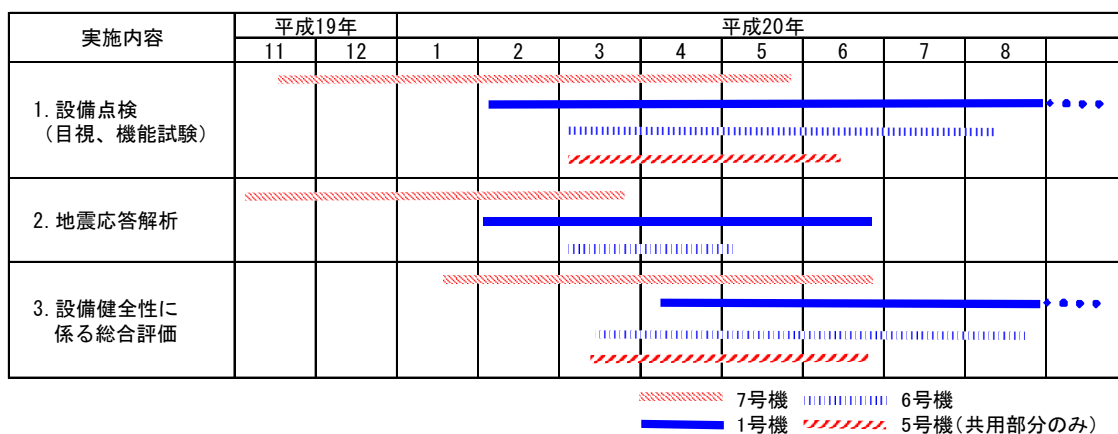
東京電力グループのみならず、関係する協力会社・メーカーのみなさまの協力を得ながら、総力をあげて、災害に強く、立地地域とのゆるぎない信頼関係を持った安全・安心な原子力発電所を構築します。

#### (1) 災害に強い原子力発電所の構築

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所におけるプラントの健全性を徹底的に確認・評価するとともに、被災した設備については復旧工事を着実に実施します。
- ・ 地質調査結果や地震観測データの分析結果をもとに、最新の知見を踏まえながら、施設の耐震設計および耐震安全性評価に用いる基準地震動を策定するとともに、必要な耐震性向上工事は、基準地震動に基づく耐震安全性の評価を踏まえ、国の委員会等の審議・確認を得ながら確実に実施していきます。
- ・ 初期消火体制の充実、消火設備や通信回線等の信頼性向上など、地震以降に強化した自衛消防策に加え、必要な追加策を速やかに実施していきます。

#### <参考：点検・評価のスケジュール>

柏崎刈羽原子力発電所1・5・6・7号機の設備の健全性に係る点検・評価計画書を原子力安全・保安院へ提出しており、今後、同計画書に基づき、設備の健全性の総合評価を実施します。2・3・4号機についても、順次提出する予定です。



#### (2) 立地地域とのゆるぎない信頼関係の構築

- ・ 防災訓練等を通じ、非常災害時における対応力を強化します。

- ・ 迅速で分かりやすい情報提供を行うとともに、広く社会のみなさまからのご理解と信頼を得られるよう努めてまいります。

## 2. 安定供給の確保に向けた取り組み

平成20年度夏期の最大電力（発電端1日最大）は、通常の暑さとなった場合、6,110万kW程度と見込んでいます。供給面では、柏崎刈羽原子力発電所を供給力に織り込んでおりませんが、新規電源の営業運転開始や長期計画停止火力等の運転再開、他の電力会社からの融通受電などにより、6,470万kW程度の供給力を確保する計画としています。

今後も引き続き、追加的な供給力（発電所の増出力運転、自家発の余剰購入、試運転電力の活用等）について継続検討・精査し、安定供給の確保に努めるとともに、状況によっては、節電のご協力等をお願いしてまいります。

### <20年度夏期の需給見通し> (万kW)

	8月
最大電力 (発電端1日最大)	6,110
供給力(発電端)	6,470
予備力(発電端)	360

\*供給力は平均値を表記

### <昨夏以降取り組んでいる供給力確保策>…上記供給力に織り込み済み

- 1) 新規電源の営業運転開始および長期計画停止火力等の運転再開 (250万kW程度)

	プラント名	出力 (万kW)	使用燃料	営業運転開始・再開時期
新規電源	川崎1号系列第2軸	50	LNG	平成20年7月
	富津4号系列第1軸	50.7	LNG	平成20年7月
	川崎1号系列第1軸	50	LNG	平成21年2月
長期計画 停止火力	横須賀2号GT※	14.4	軽油・都市ガス	平成19年9月11日
	五井4号	26.5	LNG	平成19年12月18日
	横須賀7号	35	重油・原油	平成20年3月下旬
	横須賀8号	35	重油・原油	平成20年夏前
	鹿島共同火力2号	35	高炉ガス・重油	平成20年夏前

※横須賀2号GTは廃止火力の再開

## 2) その他

- ・ 定期検査や補修工程の調整など (370 万 kW 程度)
- ・ 他の電力会社からの応援融通受電 (50 万 kW 程度)

※発電所の増出力運転、自家発の余剰購入、試運転電力の活用（網掛け部の川崎 1 号系列第 1 軸）等は、上記供給力に織り込んでいない。

## 3. 徹底した費用削減の実行

厳しい収支状況を乗り切るため、東京電力グループの総力をあげて、抜本的な費用削減策を実行していきます。平成 20 年度においては、グループ全体で 1,000 億円を超える費用削減を実現し、早期の収支均衡をめざして最大限努力してまいります。